

支援企業 訪問



株式会社
キ シロ
吉城光科学

専門家派遣の支援を受け、ステップアップした企業を紹介します。

レンズ研磨からミラー研磨へ ガラスからハイテク製品を創造

須賀川市横山工業団地内に本社を持つ『株式会社 吉城光科学』は、代表取締役の吉田氏が昭和44年に設立し、一代で築き上げてきた会

確かな先見性で
時代を読み、
オリジナルブランドで
世界に翔く

社。当時吉田氏が勤めていた会社が倒産、取引先から懇願されてレンズの研磨を行う会社を興したのが創立のきっかけだった。

会社設立から10年が過ぎた頃から、研磨の仕事は賃金の安い韓国や台湾に流れ始め、国内生産の必要がなくなりつつあった。そんな時に、吉田氏が目をつけたのが、コピー機の反射ミラーの研磨である。「コピー機から乾式コピーに移行し、一台のコピー機に何枚もの反射ミラーが使われるようになる」と。

光科学の業界は、素材を切る・削るで一社、研磨でも一社、真空蒸着でも一社が成り立つような分野だ。しかし、それでは生き残っていくことはできないと判断した吉田氏は、すべての作業を一貫して行う体制を整えた。その結果、超精密部

OA機器・金属膜ミラー製品



品を、安価かつ大量に生産することが可能になる。奇しくもパブルが崩壊、「安くて良い製品を買っなら吉城へ」と言われるようになったのである。

経営革新計画の支援を受けて

新商品を開発

安くて良いものを生

産する技術力で、着実な事業を展開させた吉城光科学は、さらにメーカーのニーズに応えるべく新商品の開発に取り組んでいる。経営環境の変化についていくのではなく、変化していくであろう先々を予想して事業を展開させるには、アイデアと開発力が不可欠。常に新製品の構想を持ち、研究に余念がない。構想を計画だけで終わらせないために、大学との産学連携、県の技術支援などさまざまな支援を受けることもためらわれない。「特許はとらない。他社がどんなに分析しても方法はわからない。技術も真似される心配はない。当社だけの製品を創り上げました」という反射率99%というミラーを作り出すことに成功したのも、その一例である。



平行平面両面研磨機

専門家派遣事業で

ISO14001を取得

取引先の満足度もより向上

不況による雇用削減が当たり前のように行われるようになった昨今、企業間でも同様のことが起きている。大手企業が取引先の絞り込みを行うのだ。つまり、取引先のリスト。厳しい条件を設け、基準をクリア出来ない場合はその時点で取引はストップ。それらの条件のひとつに必ず加わるのが、ISO14001だという。

平成13年に当センターの専門家派遣事業を活用した吉城は、いち早くISO14001を取得した。「取得そのものも、取得した後も大変

ですが、これがないければ取引すらできないのが現状。環境問題、品質、コスト、この3つの条件を満たす企業が生き残る時代だ。不況に苦しむ会社が多い中、取引先を拡大することができたのもISO14001取得によるところが大きい。

独自資本による海外進出

キシロブランドをひっさげ世界へ

吉城は平成4年を皮切りに中国へ進出を開始した(須賀川市の本社に勤務するのは100名、中国にある3つの工場には900名が働いている)。現地視察後、「将来性を考え、完成品までのワンラインを作った方がよい」と判断し、当初

の予定よりも大きな規模の工場を作った。折しも、工場の完成後に、競つように中国へ進出した国内大手メーカーが必要とする部品の現地調達可能な会社として吉城を認め、さらに取引拡大へとつながった。現在進められている4つめの中国工場計画は、揚子江流域を活用した壮大なもの。実現すれば合わせて1,500人の社員を抱えることになる。

研究開発したオリジナルミフィーは、すでにKISHIROブランドとして確立された。目下のこと、最大の課題はさらに普及させることと日々営業促進に力を入れている。世界のKISHIROになる日もそう遠くはなさそうだ。



(株)吉城光科学 代表取締役 吉田俊夫氏

支援事業にひとこと

「中小企業が生き延びていくためには、業種変更も必要。そのための情報提供、異業種との連携など、多方面からの経営支援を期待したい」

会社概要	
株式会社	吉城光科学
	(キシロピカリカク)
所在地	須賀川市横山町119
業種	OA機器ガラス部品製造加工
工場	本社工場 長沼工場
系列会社	キシロG有会社
	吉城企業香港有限公司
	中国吉華光学製品廠
	吉城光学上海有限公司
従業員	国内100名



工場外観